

# 認知症高齢者への園芸活動に関する研究に向けての勉強会

慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科

看護学専修 老年看護学分野 後期博士課程2年

増谷 順子

ga178307@sfc.keio.ac.jp

## 1. はじめに

認知症は疾患による脳の器質的な障害が原因で、記憶力や知的能力の低下、ADLの低下、安定した感情の喪失、精神機能が徐々に減退していく状態であり、これに対する医学的治療は現在のところない。認知症で、普遍的にみられる意欲の低下、行動障害などは、「療法」によってかなり改善がみられるといわれ、認知症への治療戦略として、非薬物療法による介入が一翼を担っている。

園芸療法は、アメリカ精神医学会（APA）治療ガイドラインの、アルツハイマー病と認知症に関する特別な精神療法・心理社会的治療の4つの分類には、現段階では位置付けられていない。園芸療法の第一の特徴は、「植物を世話する」ことを通し、五感を刺激しながら、身体的・精神的・社会的に、よい状態をもたらすことである。APAの分類に当てはめると、刺激に焦点を当てたアプローチに分類されると考えられる。しかし、園芸療法の有効性に関する先行研究はほとんどなく、研究を積み重ねている段階であり、更なる検証を進め、非薬物療法の一つとして推奨されることが望まれる。

老年心理学者 Tom Kitwood は、認知症ケアのための理論パーソン・センタード・ケアを提唱した。パーソン・センタード・ケアは、「その人を中心としたケア」という意味で、パーソンフッド（personhood）を維持・向上させることである。パーソンフッドとは「その人らしさ」「人となり」などと訳される Kitwood の造語である。Kitwood は、パーソンフッドが保たれている状態を「よい状態」と呼んでいる。「よい状態」とは、①周囲の人に積極的に話しかける、②周囲の人への思いやり、③自分のあらゆる感情（喜び）や思いを表現する、④創造的な自己表現（絵を描くなど）、⑤自分か

ら社会と接触すること（身の回りの出来事に関心がある）、⑥自尊心、⑦体がゆったりして緊張やこわばりがない、⑧日常生活の何らかの側面を楽しむ、⑨愛情を示すなどがある。パーソンフッドの考え方における、「よい状態」の具体的な指標が、先行研究や文献から示される、認知症高齢者への園芸活動によってもたらされる変化と合致する指標であると考えられた。

研究のねらいは、パーソンフッドの考え方に基づき作成した、園芸活動プログラムの有効性を明らかにし、看護における園芸活動を用いた認知症高齢者への援助方法を確立することである。そこへのステップとして研究の目的は、認知症高齢者への園芸活動プログラムを作成することである。

そこで、認知症高齢者への園芸活動プログラムを作成するにあたり、実践家や専門家から、方法論についての知識を習得し、アドバイスを得ながら、よりよい園芸活動プログラムを作成したいと考えた。さらに研究対象施設のネットワークを作ることにより、今後のフィールド開拓につなげていくことが必要であると考え、勉強会を実施した。

本報告書では、2009年6月に実施した「認知症高齢者への園芸活動に関する研究に向けての勉強会」の詳細とその結果を報告する。

## 2. 目的

- ①園芸療法の実践家から、認知症高齢者への園芸活動に関する方法論を学び、アドバイスを得る。
- ②実践家より得たアドバイスをもとに、研究者が、園芸活動プログラムを作成する。
- ③研究者と研究協力者が、研究対象施設を訪問し、作成した園芸活動プログラムを用いた研究計画について、施設職員に説明し、今後のフィールド開拓や、研究協力のネットワークを作る。

### 3. 勉強会の開催報告

#### 3.1. 勉強会の概要

##### (1) 第1回

日時：2008.6.6 13:00～15:00

場所：横浜市青葉区区民支援センター

講師：園芸療法普及協会 園芸療法リーダー

参加者：計2名

内容：・園芸療法とは：園芸療法の歴史と状況  
・園芸療法の現場と活動の評価方法

##### (2) 第2回

日時：2008.6.7 10:00～12:00

場所：横浜市青葉区区民支援センター

講師：園芸療法普及協会 園芸療法リーダー

参加者：計2名

内容：・高齢者に対する園芸療法  
・園芸療法に適した植物

##### (3) 第3回

日時：2008.6.13 13:00～15:00

場所：横浜市青葉区区民支援センター

講師：園芸療法普及協会 園芸療法リーダー

参加者：計2名

内容：・栽培の基礎知識  
・園芸療法のための設備と道具

##### (4) 第4回

日時：2008.6.14 13:00～15:00

場所：横浜市青葉区区民支援センター

講師：園芸療法普及協会 園芸療法リーダー

参加者：計2名

内容：・実践の手順と評価表の分析

### 4. 研究対象施設のフィールド開拓

#### (1) 研究対象施設

本研究の研究対象施設は、特別養護老人ホームである。選択の条件として、特別養護老人ホームは、認知症高齢者が生活しており、看護師が常駐していることである。本研究のねらいは、認知症高齢者への園芸活動プログラムの有効性を明らかにし、看護における園芸活動を確立することである。そのため、将来的には、看護師による介入を考察する必要があることから、本研究の目的に即した場所であると考えられる。

#### (2) 研究計画の説明

研究の意義、目的、方法について、研究計画書を用いて、慶應義塾大学大学院博士課程2年増谷順子(研究者)が、詳細に説明した。



本研究では、軽度～中等症の認知症高齢者を対象として、グループによる園芸活動を一定期間実施し、園芸活動による認知症高齢者の変化を、研究者が作成した評価表を用いて分析する。また、研究者は、資料を用いながら、園芸活動プログラムの一部を、施設職員に体験してもらい、研究方法のイメージを抱いてもらった。



### 5. 今後の展望

本研究は、認知症高齢者への園芸活動プログラムの作成と、園芸活動プログラムの有効性を明らかにし、看護における園芸活動を確立することである。そのためには、より多くの認知症高齢者に、園芸活動プログラムを活用した援助を実践し、実践家や専門家のアドバイスを生かしながら、園芸活動プログラムの洗練を行っていく。

#### 謝辞

今回の勉強会実施にあたり、ご協力いただいた講師、勉強会にご参加いただいた方々に感謝いたします。

本勉強会は、2009年度湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」支援により行なわれた。